

IASB公開草案「その他の包括利益の項目の表示（IAS第1号の修正案）」に対する意見

平成22年9月30日

日本公認会計士協会

日本公認会計士協会は、その他の包括利益の表示プロジェクトに対する国際会計基準審議会（IASB）の継続的な努力に敬意を表すとともに、公開草案「その他の包括利益の項目の表示（IAS第1号の修正案）」に対するコメントの機会を歓迎する。

我々は、その他の包括利益（OCI）項目のうち、純損益に振り替えられることのないものと、その後の振替の可能性のあるものとの区分について、会計基準設定上の概念上の根拠が必ずしも明確ではないと考えており、IASBの概念フレームワークのプロジェクトで検討の上、適切な規定がなされることが必要と考えている。

以下、我々の意見についてコメントする。

純損益及びその他の包括利益計算書

質問1

当審議会は、包括利益計算書の表題を、IFRS及び他の公表文書で言及する際には、「純損益及びその他の包括利益計算書」に変更することを提案している。これに同意するか。同意する理由又は同意しない理由は何か。どのような代替案を提案するか。

【コメント】

同意する。

本公開草案では「純損益とその他の包括利益を分離した計算書」（2計算書）の選択肢をなくして1計算書にし、その中で純損益の部とその他の包括利益の部に区分することが提案されている。2計算書方式の選択肢を廃止することにより表示の首尾一貫性が高まり、比較可能性が改善され则认为。

また、「純損益」を基に企業の業績評価が実施されている現状に鑑みれば、「純損益」は依然として財務報告において重要な指標である。1計算書方式に統一することにより、純損益が最終の数値として表示されなくなり、純損益の重要性を損なう懸念も指摘されているが、提案された計算書の名称に「純損益」が加えられること、また「純損益」と「その他の包括利益」の2つの部に明示的に表示することにより、「純損益」の重要性が後退しないと考えられるためである。

その他の包括利益の項目の表示

質問 3

本公開草案は、その他の包括利益（OCI）の項目のうち、その後の期間で認識の中止の際に純損益に振り替えられる（リサイクルされる）ものを、純損益に振り替えられないことのないOCIの項目と区別して表示することを企業に求めることを提案している。このアプローチを支持するか。支持する理由又は支持しない理由は何か。どのような代替案を提案するか、またその理由は何か。

【コメント】

区分表示の適切性について、コメントする。

提案については支持するが、将来において純損益に影響を与える可能性のあるOCI項目の累積情報についても明確に表示できるよう、所有者持分変動計算書においても、リサイクルされるOCI項目とリサイクルされないOCI項目とに分類して表示すべきと考える。

その他のコメント

質問 6

本提案について他に何かコメントがあるか。

【コメント】

本公開草案では、その他の包括利益（OCI）項目のうち、純損益に振り替えられないものと、その後の振替の可能性のあるものとを分類して表示することが提案されている。一方で、どのOCI項目が純損益に振り替えられないことがないか、またどのOCI項目がその後の振替の可能性があるかについて、それぞれの会計基準の定めに従うとしている。しかし、我々は両者の区分について、会計基準設定上の概念上の根拠が必ずしも明確ではなく、従って性質の違いがないと考えられるものがリサイクルされるものとされないものに分断されており、財務諸表利用者に有用な情報を提供しているとはいえないと考えている。この区分については、概念フレームワークのプロジェクトで検討の上、適切な規定がなされ、それをベースに個別の会計基準で取扱いが定められるべきであると考えている。

以 上